

〈相双地方振興局長賞〉

「イメージ」を変化させて

南相馬市立原町第三中学校 三年 村田 絢音^{むらた あやね}

「税金」と聞いていいイメージを浮かばせる人は少ないと思う。私も学校で遊行を受けるまでは、税金に対していいイメージは全く湧かなかった。むしろ、「増税」などの言葉をたくさん聞いていたため、悪いイメージしかなかったのだ。しかし、ある授業をきっかけに、私の税金の「イメージ」は間違っていたことに気づいた。

先日、私の学校では「租税教室」という授業が行われた。税理士の方が来て、税金について説明してくれるという授業だった。正直、私は税金にはまったく興味がなかったし、知ろうとも思ったこともなかった。そのため、授業を楽しみだ、とはとても思っていなかった。ところが、いざ授業が始まると、私にとって驚きの連続だった。

授業の中で「国や地方公共団体が負担している中学生一人当たりの教育費は」と問題が出てきた。あまりピンとこなかったがそこまで多いものではないだろうと考えていた。答えを聞くと、その金額の多さにとても驚いた。なんと、年間で約百二十万円も税金で負担されているそうだ。その時に私は、今自分の使っている教科書に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と表記があったことを思い出した。今までは、そうなんだとあまり気に留めていなかった。けれど、この教科書は多くの人の力が集まって私のもとに来てくれたと考えると、標記の意味が深く、重く感じた。

他にも授業では税金の種類や集め方、税金が無くなったらなどの説明があった。税金の種類について聞いたときは、約五十種類という多さにも驚いた。詳しく見ていくと、私がまったく知らなかったものがほとんどだった。少し難しく感じるものもあったが、どれも私が大人になった時に大切になってくると考えると、他人事のように効くことはできなかった。

税理士の方が言っていた言葉の中で「税金はみんなで負担して、みんなのために使う。」が印象に残っている。税金によってできた建物や作られた教科書等は色々な人の思いが「税金」によって繋がれて私達が使用していると私は考えた。税金があるからこそ、私は生活できている、税金に対する良い「イメージ」が授業によって私のなかで生むことができた。

あと三年ほどで私は成人と呼ばれる年齢になる。税金と今より深くかかわっていく機会も増えていくだろう。もしかしたら、税金を大変だと思ふこともあるかもしれない。そんな時は、この授業のことを思い出し、私達の生活を支えてくれている存在と考えるようにしたい。また、「税金」に対する悪い「イメージ」を少しでも払拭できるように、私が教

える側になり、正しく説明していけるようにより知識をつけていきたい。